

# ICT 海外ボランティア会会報

## No. 74

2017年7月2日(日)

### 目次

#### ◆特別寄稿

真藤さんの人となり(5)

「NTTの中にマイクロソフトとインテルを創る」

当会特別顧問 石井 孝氏

#### ◆JICAの動き

JICAの民間企業海外展開支援事業(3)

事務局

#### ◆海外グラフィティ

フェードルを観て

日本ベンダーネット社長 エッセイスト 田上 智氏

#### ◆現地便り

ミクロネシア便り(5)

新東京医科大学ポンペイ校医学部医用工学教室 教授 岡田 一秀氏

#### ◆第30回海外情報談話会模様

事務局

#### ◆第31回海外情報談話会開催のご案内

事務局

## 真藤さんの人となり(5) 「NTTの中にマイクロソフトとインテルを創る」

当会特別顧問 石井 孝

今回は真藤さんの先見性について触れてみたいと思う。企業は時代の変化に即応し、時代の荒波に乗って行かねば忽ち潰れてしまうが、それだけではサバイバルは不可能である。船長は先を見据えた舵取りをしなければ、この激動の世界で生き残ることは不可能である。



### 「NTTの中にマイクロソフトとインテルを創る」

1985年当時の電話網は、唯一の情報通信ネットワークであったため、これがシステムダウンを起こすと社会問題に波及する恐れがあった。このため、トラブルが発生すると、ソフトウェアを開発したメーカーの社員が昼夜を問わず現場に駆けつけ修理していた。これを知った真藤さんは、大事な商売道具が故障して、自力で直せないとは何事か、ということで新組織が発足したことについては既に述べた。(真藤さんの人となり(1))

しかしこれには裏があった。真藤さんは、電気通信の現状と将来を洞察し、21世紀はマイクロプロセッサとソフトの時代になる。それに備えて置けば、電話を主体とした電気通信がどうなるとも依然として旨い飯は食えると判断された。この為、通研でハードとしてのマイクロプロセッサを製造し、其処にインストールする様々なソフトウェアの内製部隊を新らに新設しなければならないと決断されたのである。マイクロソフトもインテルの影も容も見えない1985年当時に、謂わば「NTTの中にマイクロソフトとインテルを創る」ことを決断したのである。

おまけに、ハードを動かす交換機ソフトが内製化出来れば、今で言う「組み込みソフト」の技術がマスター出来るといふ読みがあったようであるとは、これはまさに「先見の明」の極みとも言えるのではないか。

ところで、如何したら先が読めるかということである。真藤さんの言によれば、「日々、真剣に仕事に取り組んでいけば、そのこと自体が歴史の一コマなのであるから、それを通して、おぼろげながら歴史の中の一貫して流れている変化の法則を体得出来る、そうなれば、ある程度先が見えてくる」という話である。ソフトウェアの重要性もタンカーの設計・製造・運転の全体のコンピュータ化を図った際、痛感したものだ、という話であった。

そう言われてみれば、我々の場合も必要に迫られ、全国に散在する電子交換機の遠隔・集中保守システムや、TCP/IPプロトコルを駆使した独自のグループウェアシステムを自主開発し、1990年代当初より、一足先にインターネットの威力を享受した。後から考えれば、ゆうに10年以上時代を先取りしていたことになる。

先を読むと云う事は、書物を読んだり人の話を聴いて勉強するのではなく、与えられた仕事に対し、泥にまみれ手を汚し、汗まみれになって真剣に取り組めば、遠い将来のことは別としても、十年先ぐらい先のモノは、自ずと副産物として手に出来るのである。

### JICA の民間企業海外展開支援事業(3)

事務局

JICA 事業については、円借款、無償資金協力、技術協力、青年海外協力隊、シニア海外ボランティア<会報第 71 号掲載>などを思い浮かべる方が多いと思いますが、以下のよう  
な民間企業への海外展開支援事業についても注力しています。

- ・ 中小企業海外展開支援事業(基礎、案件化、普及・実証)<会報第 73 号掲載>
- ・ 途上国の課題解決型ビジネス(SDGs ビジネス)調査
- ・ 民間技術普及促進事業<会報第 72 号掲載>
- ・ 協力準備調査(PPP インフラ事業)
- ・ 民間連携ボランティア
- ・ 国際協力キャリア総合情報サイト(PARTNER)
- ・ 日本センター
- ・ アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ(ABE イニシアティブ)、等

今回は、民間連携ボランティアについてご紹介いたします。本事業は、青年海外協力隊、シニア海外ボランティアをカスタマイズして派遣するものであり、比較的利用しやすいと想定されますので、皆様の関係する企業等においても、今一度、ご確認・ご検討いただければ幸いです。

#### 民間連携ボランティアの概要

<https://www.jica.go.jp/volunteer/relevant/company/cooperation/>

#### 1. 派遣元企業のメリット

##### ①グローバル人材の育成

派遣者の語学力、異文化理解力、コミュニケーション力のほか、創意工夫力、企画力、問題解決力、調整力などが高められ、逞しい精神力が鍛えられる。

##### ②ネットワークの構築

JICA のネットワークを活用し、民間企業では形成しにくい現地政府等へのアクセスが円滑化される。

##### ③現地の商習慣・潜在的市場の把握

企業の海外展開・拠点拡大に向けた人材の先行投資ができ、当該事業に関する現地人脈等を形成することができる。また、現地語を理解する社員育成が可能となる。

#### 2. 民間連携型ボランティアの一般公募型ボランティアとの主な相違点

##### ①募集時期：随時募集(一般公募型は 4 月、10 月など)

##### ②受入国・要請内容・職種：企業の要望を踏まえて調整・決定

##### ③派遣期間：1～2 年間で推奨(一般公募型は原則 2 年間)

#### 3. 参加資格

##### ①企業：株式会社、持分会社、事業協同組合、企業組合等

②派遣者：満 20 歳～69 歳、日本国籍、基礎的な英語力(TOEIC 330 点、英検 3 級)等

#### 4. JICA 負担経費

①派遣者への支給：現地生活費、住居費、往復渡航費

②中小企業への補てん：A.給与補てん 80%、B.賞与補てん 80%、C.社会保険料事業主負担相当額(A + B)×15.5%、D.退職金給与引当金相当額(A + B)×11%、E.一般管理費等補てん(A + B)×40%⇒すなわち、**派遣者の給与+賞与の 133.2%を補てん**  
(ただし、A～D 合計の上限額は 60 歳未満 55 万円、60～65 歳未満 44 万円、65 歳以上 38.5 万円)

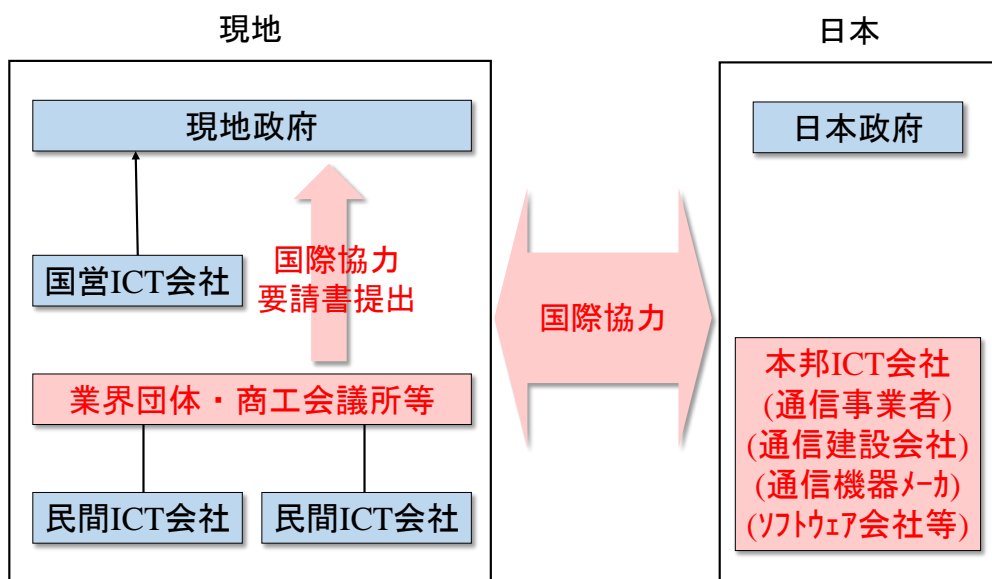
#### 5. 派遣先の検討(私案)

日本における電気通信事業の知識・経験等を活かすには、海外の電気通信事業者への派遣が望ましい。しかしながら、海外の電気通信事業者は現在、途上国を含め、かなりの国々で民営化されており、電気通信事業における青年海外協力隊、シニア海外ボランティアの派遣先として適切な派遣先は見つけにくく、大学・研修センター等の講師、PC インストラクター等のような派遣先しかないのが現状である。

一方、海外の電気通信事業者においては、運用・保守を中心に電気通信マネジメントが適切な形で浸透していない事業者も多いと思われる。電気通信事業にまつわる日々のカイゼン、人財育成、設備管理、マーケティング等、ほぼあらゆるマネジメントにおいて国際協力のニーズがある。

このため、下図に示すとおり、現地電気通信事業の業界団体や商工会議所を要請元として、傘下の民間電気通信事業者を指導・支援するスキームを形成すればよいと思われる。このスキームにより、電気通信インフラ、ソリューション等、電気通信事業の根幹分野についても青年海外協力隊、シニア海外ボランティア、技術協力プロジェクト等を実施する機会ができると思われ、現地側にとっても重要な分野として、その効果は多大である。

このようにして、皆様の連携・協力を得ながら、電気通信事業における青年海外協力隊、シニア海外ボランティア等の国際協力が活性化・強化されれば幸いである。



## 海外グラフィティ

### フェードルを観て

日本ベンダーネット社長 エッセイスト 田上 智



大竹しのぶ”の「フェードル」を観た。元々はギリシャ悲劇であるが、フランスの作家、ジャン・ラシーヌの作で、今までサラ・ベルナル等著名な女優が演じてきた名作である。

自分がかつてギリシャ政府の顧問を2年ばかりしてきて、まがりなりとも土地勘もあるので、普通のひとより身近に感ずるのかもしれない。

一言で述べれば、アテネ王テゼの後妻であるフェードルと義理の息子イッポリットとの近親愛の物語。

フェードルそのものは、クレタの王ミノスと太陽神“ヘリオス”の娘パジフェの間の子である。ギリシャもローマも神話の神々は読み方がいろいろある。まず、ミノスという男性名は、クレタでは、ごくありふれた名前です。日本だとさしずめ“太郎”さんというところだろうか？ギリシャ政府の顧問の時、ヨーロッパビジネスの進め方の師であったのが、クレタ出身の元ギリシャ中央銀行総裁ミノス・ゾンバナキスさんで、英国に帰化していた。風貌はさしずめ映画「戦場にかける橋」に出演していたアレック・ギネスを彷彿とさせていた。実は、クレタは古くからのミノア文明があり、姓にも特徴があって、例えば、ゾンバナキスさんのように、末尾がISで終わる場合が多い。ヘリオスというのはむしろ「アポロ」という名の太陽神のほうが通りやすいだろう。

ミノス王も全能の神ジュピターとエウローペの間の子で、エウローペとはヨーロッパの語源となった女神である。フェードルはイッポリットに告白するも、当のイッポリットは、フェードルは眼中になく、心中にあるのは、テゼに反逆したアテネ王族の娘アリシーである。しかるに、ことは面倒になる。

還暦を迎えようという年齢の女優・大竹しのぶは若い！舞台狭しと動き回る。カーテンコールで舞台前面に出たと思えば、挨拶後、走って奥に引っ込む。日頃のフィジカルな訓練が足りているのではないか？“大竹しのぶ”のフェードルである。つとに主役がすべてである。

反骨の先祖を持ち、天才の名をほしいままにしている大竹しのぶ、仕事はひっきりなしに来る。これからも元気な姿を見せ続けるだろう。（了）

## 現地便り

### ミクロネシア便り(5)

新東京医科大学ポンペイ校医学部医用工学教室 教授  
御殿場基礎科学研究会 オセアニア支部長  
太平洋地域医学会 会長  
岡田 一秀 Ph.D

ICTの皆さま、こんにちは。新東京医科大学ポンペイ校の岡田です。現在、ホノルル



にあります。ここで私達が運営している医学会の会合をしたり、医療協力を確認したりします。日本・世界に散らばっておられる日本人の方に向けて、ここから医療ツイキャス（インターネット放送）を日本時間 6 月 2 日（金）午後 6 時頃（ホノルル時間 1 日（土）午後 1 2 時頃）に実施しようと考えております。

[https://ssl.twitcasting.tv/kehua\\_and\\_kazu/broadcaster](https://ssl.twitcasting.tv/kehua_and_kazu/broadcaster)

太平洋地域は北西側からミクロネシア地域・ポリネシア地域・メラネシア地域に分かれるのですが、ハワイは良いにつけ悪いにつけ、文化・経済・インフラ等、どの地域にも refer していかないといけないところです。

ワイキキの市街からやや離れた山の裾野にハワイ大学があり、各種医学の研究・教育も盛んに実施されており、今回はそちらの教授も既に訪ね、これからは東洋医学のマスターかたがた、こちらのハワイ・シニアライフ協会が主催されておられる医学教室にも日本から来たメンバー共々参画させていただきます。また、ホノルルと言えば、四国を本拠とする丸亀うどんが有名で、麺に各種素材をトッピングする薄味を既に食して来た処です。



私の場合、工学部で通信工学・情報工学を教えた後、医学部に移り、医用工学を教え出して早 2 年、また地域全体で漁夫の利を得ると言うことで、20 カ国 + 10 州/郡包括の学会を立ち上げてから早 9 カ月です。何とか 8 本の月末締め学会誌を発刊し、世界 100 ポイントに配布してきました。学生が人の命を預かる医師を志すと言うことで、教える方も重責でプレッシャーを感じることもありましたが、また医学会の運営も任期が 3 年で、各位から論文・投稿を集め毎月 50~80 ページの成果物を出して行くのは大変でしたが、地元の方々の校正・宣伝活動への多大な協力と、当初、私の出身母体である大阪大学及びトヨタ自動車（株）の賛助が得られたこともあり、ヨチヨチ歩きですが、何とかここまで来ることができました。

研究・サービス補助と言うことで、WHO から学会に若干の補助金も下るようで、現在申請中であり、地域全体の医学発展を議論の上、補助実験・緊急援助（特に災害発生に伴うもの）に使い、そのアウトプットは公開の形でフィードバックして行こうと思っています。



我々がこういう広域の活動を行うことで、日本・米国・中国・豪州等大陸側への刺激・活性化も念頭にあることは勿論ですが、各地域がフェアに医療研究の活性化及び医療情報交換・議論に浴せるように、ミクロネシア地域→ポリネシア地域（ここも含みます）→メラネシア地域→ミクロネシア地域→・・・と、時計回りに会長国を回して行く仕組みにしましたので、つつがなく学会のスキルとサービスを上げ、ポンペイでの国際会議を経て 2 年 3 カ月後にはポリネシア地域にバトンタッチして行きたいと思っています。あと 1 週間したら成田に入り東京で 1 週間滞在し、我々と提携している都内病院でコラボ確認をしたり、トヨタの元上司と技術的な Discussion をしたり、また学部側で学んだ千葉大学も訪ね、同時に現行学会誌はミクロネシア連邦政府だけでなく、日本の新旧厚労大臣にも月々流していますので、厚労を担当する議員とも会って来るつもりです（時間があれば、在日ミクロネシア連邦大使館にも）。6 月 1 5 日以降は地元関西に帰りまして、1 カ月強

ましたので、つつがなく学会のスキルとサービスを上げ、ポンペイでの国際会議を経て 2 年 3 カ月後にはポリネシア地域にバトンタッチして行きたいと思っています。あと 1 週間したら成田に入り東京で 1 週間滞在し、我々と提携している都内病院でコラボ確認をしたり、トヨタの元上司と技術的な Discussion をしたり、また学部側で学んだ千葉大学も訪ね、同時に現行学会誌はミクロネシア連邦政府だけでなく、日本の新旧厚労大臣にも月々流していますので、厚労を担当する議員とも会って来るつもりです（時間があれば、在日ミクロネシア連邦大使館にも）。6 月 1 5 日以降は地元関西に帰りまして、1 カ月強

ゆっくり郷里の河原でも歩き、大衆温泉にでも浸かり、ゆっくりとした時を持ちたいと言いたい処ですが、日本での検体交換・実験・学会参加・特許議論・自身の論文 Fix 等が待ち受けております。時々、JICA の JOCV・SV・専門家の募集もメールで目にしますが、合格した場合、日本国民の血税を背景に国外に出る以上はいい仕事をしたい。また、4年以上前、日本にいた時通っていたボクシングジムでの大好きな標語でもあるのですが、“日々、昨日の自分を超えて行こう”として効率よく充実し、自分のためにも日本にいる時よりも遥かにスキルアップされる活動をしたい。新しい環境に文句を言わないで、今はどこの国でもネットが発達しているし、苦勞しつつも今まで培って来た実力を見せれば、私達の世界で言うと、試料などを貰えたり機械を貸与してもらえたりするのでそれが可能となります。私は日本の音響学会にも属していますが、元学会長から『今の世の中で、どこの国だから、何が出来ない』などと言うのは、言い訳でしかない』と言われたものです。実際、適当にお茶を濁しておこうとする隊員と、毎日勉強・努力して何かをがむしゃらに身につけようとしていた隊員では、客観的に見て帰国時の仕上がりが違って、頑張れば本邦の尊厳も上げられ、本人の将来も広がって行くと言う点から期待します。あとは、活動する配属部署に肩書きを与えて貰うと正々堂々と交渉先と名刺交換も出来、責任ある仕事が出来ると思います。プレッシャーになる人もいますが、所属部署にとってもいい加減なモラルの低い仕事をされると困るので、どこでも肩書きを与えてくれます。

私のやっている医学で言うと、世界で年間5000万余の方々が各種病気で亡くなっておられるので、我々医学関係者は、気を引き締めて問題と面と向かい、スキルを上げ発明もし、老若男女の犠牲の数を老衰側に少しでも転嫁して行く責務があるのですが、情報交換でも多くの方々が救えるのです（上記で言うと1000万人は可能）。自分は“医”の世界に入って解りましたが、どこの国でもオールマイティで何でも来いという医師は何処にもいないのですね。



我々の学会にも日本から多くの方が投稿していただいておりますが投稿歓迎です。本来ならば、工学の分野であっても恣意的に健康・

医療に絡めた工学・通信が望ましいのですが、「この学問がこんな分野に役に立つとは思っていなかった」と言う局面にいつ何時遭遇するかわからないものです。純工学・純通信でも歓迎です。校正は私どもでかけるので、このメルアド [rainbow\\_vc@yahoo.co.jp](mailto:rainbow_vc@yahoo.co.jp) に送っていただければ、フォーマットも問いません。地域の性質上、英文の学会誌ですが、日本語で書いていただいても、我々で翻訳はできるでしょう。死や生と言うのは誰でも客観的に見られるし、他人事ではないので、医学をウォッチし自分も参画して行けば、経験則上、ご家族とご自分に将来必ず至福が待っています。と言うことで、今日も忙しくなりそうですが、ワイキキベイには陽が上がり薄日が差して来たようです。ここはアジアで言うと台湾くらいの緯度になるのでしょうか。海は既にギラついております。皆さま、今日もお元気でお過ごしください。

### 第 30 回海外情報談話会模様

事務局

第 30 回海外情報談話会が 2017 年 6 月 30 日(金)15 時～17 時、(一財)海外通信・放送コンサルティング協力(JTEC)及び Web 会議において開催された。講師は NTT 関係技術士の会の飯田敏幸代表幹事、本間勝幹事、倉島渡幹事、演題は「NTT 関係技術士の会とその海外活動」であり、参加者は 29 名(Web 参加 1 名含む)であった。



NTT 関係技術士の会の概要、活動内容等について説明があった。以下にいくつかの話題を列挙する。

- ・技術士とは、国によって科学技術に関する高度な知識と応用能力が認められた技術者で、科学技術の応用面に携わる技術者にとって最も権威ある国家資格である。技術士は、公益確保と資質向上が責務になっている。
- ・技術士第一次試験の合格率は受験者の 49%であり、比較的取り組みやすいが、第二次試験の合格率は受験者の 14.6%である。
- ・国際的な技術士の称号として、APEC エンジニア、IPEA 国際エンジニアがある。
- ・技術士のメリットとして、建設業法の専任技術者や監理技術者として活動でき、同法が規定する経営事項審査の技術力で評価されるなどがある。
- ・博士号との趣旨の違いについて、学理を開発した学者には博士という称号が与えられる一方、技術を産業界に応用する能力を有すると認められた技術者には技術士という称号が与えられるものである(土光敏夫経団連第 4 代会長)。
- ・企業、官公庁、大学などの技術士会が組織され、相互交流・拡大を図っている。
- ・NTT 関係技術士の会は現在、個人会員約 400 名、法人会員 9 社・団体が登録されている。個人会員になるには、技術士資格は不要であり、NTT グループ・OB であれば、次のホームページで申込みばほぼ登録され、各種活動への参加やメーリングリストによる情報収集等が可能となるので登録申込を検討してほしい。

<http://www.nttpe.org>

- ・海外活動に関しては、NTT 関係技術士の会の設立以後、中国、ベトナム、ミャンマー、インドネシア、マレーシア、フィリピンの現地 ICT 動向調査を実施した。海外の技術士との交流等により、現地政府高官等と面談しやすい面がある。
- ・今年度は、11 月 15 日～20 日にタイの現地調査を予定しているので、多数のご参加をお願いします。





質疑応答では、技術士の法制度的権利・効果、技術士第一次試験の免除範囲(指定された教育課程)、途上国の事業活動への参画・貢献状況など、活発な意見交換があった。

## お知らせ

### 第 31 回海外情報談話会開催のご案内

事務局

第 31 回海外情報談話会を下記のとおり開催いたしますので、奮ってご参加ください。

1. 日時： 2017 年 7 月 21 日(金)15 時～17 時
2. 場所： (一財)海外通信・放送コンサルティング協力(JTEC)及び Web 会議(注)  
東京都品川区西五反田 8-1-14 最勝(さいしょう)ビル 7 階  
JR 五反田駅から徒歩約 5 分(下図のとおり)  
<http://www.jtec.or.jp/about/access.html>
3. 講師： 株式会社光通信 常勤顧問 鈴木 武人様  
(元 PLDT チーフオペレーティングアドバイザー、元 NTT アメリカ社長)
4. 演題： 「今も継続・拡大するフィリピンの Smart・PLDT プロジェクト」
5. 参加費： 無料(会員制ではなく、どなたでも参加できます)
6. 申込方法： 参加ご希望の方は、下記連絡先にご氏名及び談話会参加希望の旨をご連絡ください。  
<連絡先> 事務局 [info.ictov@network.email.ne.jp](mailto:info.ictov@network.email.ne.jp)

☆海外現地法人の立上げ及びその後の経営はどうあるべきか、今も将来も継続・拡大するためにはどうすべきか、そのヒントを掴む機会です。乞うご期待！

(注)Web 会議へのご参加は東京首都圏以外からのご参加に限定いたします。ご氏名、メールアドレス、参加時の県名(海外は国名) 及び談話会参加希望の旨をご連絡ください。Web 会議への参加方法は次のとおりです。

①次のサイトで初回のみ、Zoom Client for Meetings(サイトの一番上にあるもの)をダウンロードし、インストールする(無料)。Zoom はクラウドベースの Web 会議システムであり、パソコン、スマホ、タブレットのいずれでも可能です。

<https://zoom.us/download>

②Web 会議の案内が開始 5 分前までにメールで届くので、メールで指定された会議室に入室する。



## 会報お読みの方々へのお願い

当会の拡充とともに、会報の充実も図ろうとしております。

このため、会報をお読みになった皆様のご感想、ご意見、ご要望は、会報作成のみならず当会運営にあたって大きな方向付けに役立ちます。どうぞご遠慮なくお送りくださいますようお願い申し上げます。

<送付先> 事務局 [info.ictov@network.email.ne.jp](mailto:info.ictov@network.email.ne.jp) 又は

会報担当 村上勝臣 [katsumi.murakami@jcom.home.ne.jp](mailto:katsumi.murakami@jcom.home.ne.jp)

## 編集後記(編集長から一言)

会報第74号を発行しました。皆様、ご寄稿などのご協力をありがとうございました。

6月21日頃東北地方も梅雨入りをしました。我が宮城県は三陸沖から山背風が吹くので、6月から東北で一番温度が低い日が続きます。

海外情報談話会は今回も大阪と多元中継を実施しました。次回はさらにカイゼンしたいと思っています。

発行： ICT 海外ボランティア会(ICTOV)

会報担当： 村上 勝臣(編集長兼広報部長)、山川 博久(事務局長)

ホームページ担当： 山崎 義行(報道部長)、安達 信男(幹事)